

HP TFT5600ラックマウント型 キーボード/モニタ (RKM) ユーザ ガイド



2004年1月（第4版）
製品番号 229719-194

© 2004 Hewlett-Packard Company

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で 사용되는場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP T5600ラックマウント型キーボード/モニタ (RKM) ユーザ ガイド

2004年1月 (第4版)

製品番号 229719-194

目次

このガイドについて

安全に使用していただくために	vii
装置の記号	vii
ラックに関する注意	ix
本文中の記号	ix
HPのWebサイト	ix

第1章

はじめに

TFT5600 RKMの特徴	1-2
コンポーネント	1-4

第2章

取り付け

TFT5600 RKMを取り付ける	2-1
キットの内容	2-1
取り付け手順	2-2
TFT5600 RKMのトレイにアクセスする	2-8
TFT5600 RKMを取り外す	2-8
ケーブルロック メカニズム	2-9

第3章

TFT5600 RKMの使い方

オン スクリーン メニュー	3-1
---------------------	-----

OSDのメインメニュー	3-3
OSDのデフォルトメニュー	3-4
Auto Setup（自動設定）	3-4
Brightness（明るさ）	3-5
Contrast（コントラスト）	3-5
Image Adjust（画像調整）	3-6
Languages	3-13
OSD Settings（OSD設定）	3-13
Information（情報）	3-16
ステータスバー	3-16
キーボードの使用法	3-17
キーボードのプログラミング	3-18
キーボードホットキーラベル	3-19

第4章

手入れと保守

保守と運搬のガイドライン	4-1
ディスプレイの清掃	4-2
TFT5600 RKMの運搬	4-2
ラックに設置されているTFT5600 RKMの移動	4-3

付録A

規定に関するご注意

規定準拠識別番号	A-1
各国別勧告	A-1
Federal Communications Commission Notice	A-2
Canadian Notice (Avis Canadien)	A-4
European Union Notice	A-4
Taiwanese Notice	A-5
German Ergonomics Notice	A-5

付録B

静電気対策

注意事項	B-1
アースの方法	B-2

付録C

電源コードについて

一般的な仕様	C-1
各国の条件	C-2

付録D

仕様

索引

このガイドについて

このガイドでは、取り付け手順について説明します。また、操作、トラブルシューティングおよび将来必要となるアップグレードの手順についても説明します。

安全に使用していただくために

サーバに同梱の『安全に使用していただくために』をよく読んでから、製品の取り付けを開始してください。

装置の記号

安全上の注意が必要な装置の各部には、以下の記号が表示されています。



警告: 以下の記号と組み合わせて使用され、危険があることを示します。警告事項に従わないと、けがをする場合があります。詳しくは、ご使用のマニュアルを参照してください。



装置に高電圧が発生する回路があることや、装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。

警告: 感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。メンテナンス、アップグレード、および修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。



感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。メンテナンス、アップグレード、および修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。カバーは、絶対に開けないでください。

警告: 感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。



この記号が貼付されたRJ-45ソケットはネットワーク インタフェース接続を示します。

警告: 感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話または電気通信用のコネクタをこのソケットに接続しないようにしてください。



装置の表面または内部部品の温度が非常に高くなる可能性があることを示します。この表面に手を触れるとやけどをする場合があります。

警告: 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、システムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。



電源やシステムにこれらの記号が付いている場合、装置の電源が複数あることを示します。

警告: 感電しないように、電源コードをすべて抜き取ってシステムの電源を完全に切ってください。



重量kg
重量lb

製品や機械にこの記号が付いている場合、1人で安全に取り扱うことができる重量を超えていることを示します。

警告: けがや装置の損傷を防ぐために、ご使用の地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

ラックに関する注意



警告: けがや装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- 水平脚を床まで延ばしてください。
- ラックの全重量が水平脚にかかるようにしてください
- 1つのラックだけを設置する場合は、ラックに固定脚を取り付けてください。
- 複数のラックを設置する場合は、ラックを連結してください。
- コンポーネントは一度に1つずつ引き出してください。一度に複数のコンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。

本文中の記号

本文中の以下の記号の意味を示します。



警告: その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがある警告事項を表します。



注意: その指示に従わないと、装置の損傷やデータの消失を引き起こす恐れがある注意事項を表します。

重要: 概念を説明するため、またはタスクを完了するための重要な情報を示します。

注: 本文の重要なポイントを強調または補足する追加情報を示します。

HPのWebサイト

最新のドライバやフラッシュROMに関する製品情報については、HPのWebサイト <http://www.hp.com/jp> にアクセスしてください。

はじめに

HP TFT5600ラックマウント型キーボード/モニタ (RKM) は、1Uフォーム ファクタに収納できるラックマウント型のフラット パネル モニタおよびキーボードで、ホット キーおよびトラック ボールを装備しています。

注: 1U=1.75インチ (4.445cm)

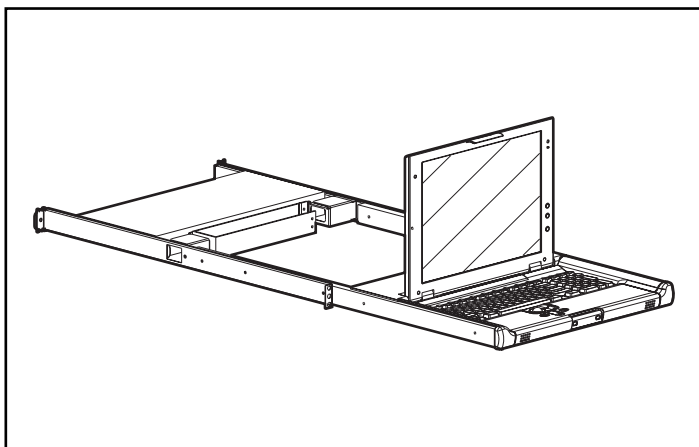


図1-1: TFT5600 RKM

TFT5600 RKMは、ユニットの背面に1Uスイッチ ボックスを増設できるだけの空間があるレー
ルに取り付けます。TFT5600 RKMは、すべてのCompaqラック9000シリーズおよびHPラック
10000シリーズで使用できます。

TFT5600 RKMは、15インチ（38.1cm）のカラー アクティブ マトリクス方式の薄膜トランジス
タ（TFT）液晶ディスプレイ（LCD）を採用しています。

TFT5600 RKMのキーボードには、HPのスイッチ ボックス製品とともに使用する内蔵ホット
キーが装備されています。ホット キー機能を使用すると、ラックマウント型デバイスを簡単
に切り替えることができます。キーボードには、9つのプログラム可能なホット キーが装備さ
れており、このホット キーを使用して9台のデバイスを切り替えることができます。別に、プ
ログラミング用のウィザード キーが1つ装備されています。

TFT5600 RKMの特徴

以下の表に、TFT5600 RKMの特徴を示します。

表1-1: TFT5600 RKMの特徴

特徴	説明
ディスプレイ	表示領域15インチ（38.1cm）のディスプ レイ
解像度	1024 × 768（65Hz）以下の解像度でフル スクリーン サポートを追加

続く

表1-1: TFT5600 RKMの特徴（続き）

特徴	説明
VGAコネクタ	標準VGAコネクタを装備し、特別なグラフィックス アダプタ カードは不要
プラグ アンド プレイ	システムでサポートしている場合、プラグ アンド プレイ 機能が使用可能
オン スクリーン メニュー	10の言語で表示可能 <ul style="list-style-type: none">英語オランダ語フランス語ドイツ語イタリア語日本語ポルトガル語簡体字中国語スウェーデン語スペイン語
ホット キーおよびトラック ボール内蔵 キーボード	9つのホット キーを使用して、9台のラックマウント型デバイスを切り替え可能。別に、プログラミング用のキーを1つ装備
電源	DC12V/40W
ディスプレイ スイッチ	ディスプレイ アセンブリを閉じてラッチをかけるとパネルの電源がオフ
スクロール キー	トラック ボールの下の下4つのスクロール キー

コンポーネント

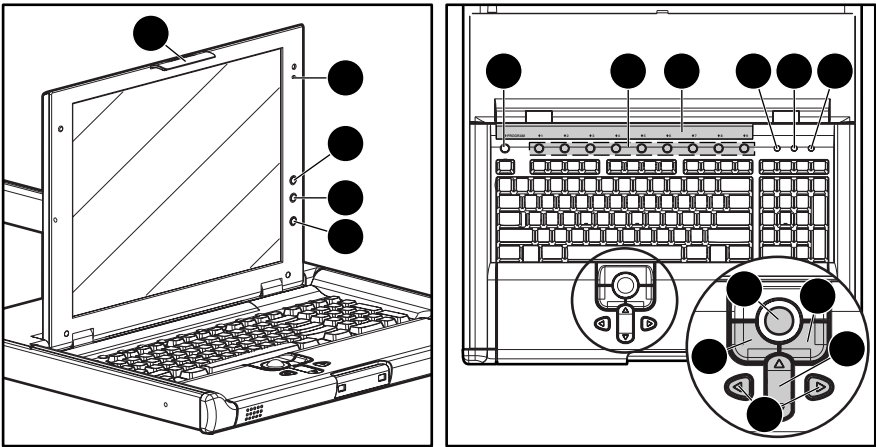


図1-2: TFT5600 RKMのコンポーネント

以下の表に、TFT5600 RKMのコンポーネントを示します。

表1-2: TFT5600 RKMのコンポーネント

参照番号	コンポーネント	機能
1	ディスプレイ リリース ラッチ	ピボット回転式で、ディスプレイ アセンブリのラッチを外す場合に使用します
2	ディスプレイ スイッチ	コンピュータがオンの状態でディスプレイを閉じるとパネルの電源がオフになります
3	オン スクリーン メニュー (OSD) のスクロール アップ ボタン	OSDメニューで上にスクロールしたり、機能を調整したりする場合に使用します
4	OSDのスクロール ダウン ボタン	OSDメニューで下にスクロールしたり、機能を調整したりする場合に使用します
5	OSDの起動ボタン	<ul style="list-style-type: none">OSDメニューを起動します選択しますOSDメニューを終了します

続く

表1-2: TFT5600 RKMのコンポーネント（続き）

参照番号	コンポーネント	機能
6	プログラム可能なウィザード キー	9つのホット キーをプログラミング可能 とし、プログラミング操作モードを開始 して、ホット キーをデフォルト モード に戻します
7	9つのホット キー	頻繁に使用する9台のデバイスに迅速に アクセスできるようにします
8	キーボード ホット キー ラベ ル（ユーザが取り付けます）	ユーザがプログラム可能なホット キー を記録できるようにします
9	Number Lock LED	
10	Cap lock LED	
11	Scroll lock LED	
12	トラック ボール	
13	右選択ボタン	
14	左選択ボタン	
15	上下のスクロール ボタン	
16	左右のスクロール ボタン	

TFT5600 RKMを取り付ける

この章では、TFT5600 RKMを取り付けるための取り付け手順とセットアップ手順について説明します。

キットの内容

アセンブリに必要な部品と数量を以下に示します。

- M6ケージナット (2)
- M6ネジ (8)
- 6-32ネジ (12)
- スライド付きマウンティング レール (2)
- ケーブル マネジメント アーム (1)
- 固定金具 (1)
- TFT5600 RKM (1)
- ロック プレート (2)
- キーボード ホット キー ラベル (2)
- ラック テンプレート (1)

このキットには、取り付け作業を効率よく行うために、これら以外の部品が含まれる場合があります。

取り付け手順

1. TFT5600 RKM用の適切なラック位置を決定します（通常は20Uまたはユーザの選択による）。

コンポーネントの上部からテンプレートを使って測定し、ラック フレームの前面および背面の、マウンティングブラケットとリア ケージナットを取り付ける位置に印を付けます。

注: ラックの背面でテンプレートを利用する場合は、次のコンポーネントの位置を揃えやすく、ラックの印はテンプレートが一番上に付けてください。

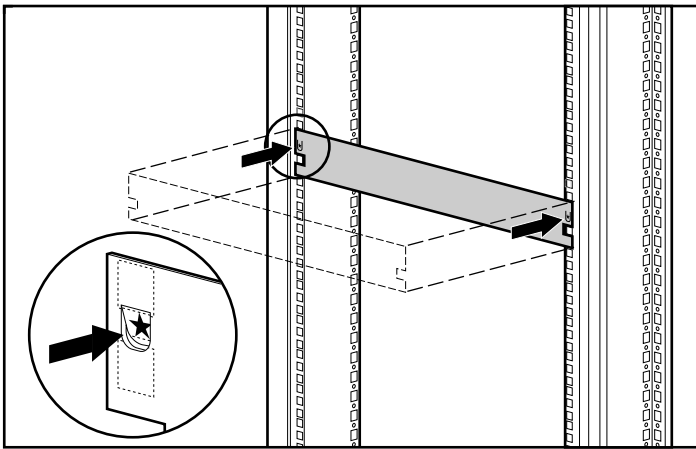


図2-1: 1Uテンプレートで測定する

2. スライド付きマウンティング レールを取り付けます。
 - a. ケージ ナット1個を、ラック背面にラック テンプレートで印を付けた穴に挿入します (1)。
 - b. マウンティング レールのタブを、ラック背面の適切な穴に引っ掛けてから、ネジを1本挿入します (2)。

重要: マウンティング レールをラック背面に取り付ける場合、必ず、前面のネジ穴の位置を揃えてください。

- c. 2本のM6ネジをラック正面の穴に挿入して締めます (3)。
- d. 2a~2cの手順を繰り返して、もう一方のマウンティング レールを取り付けます。

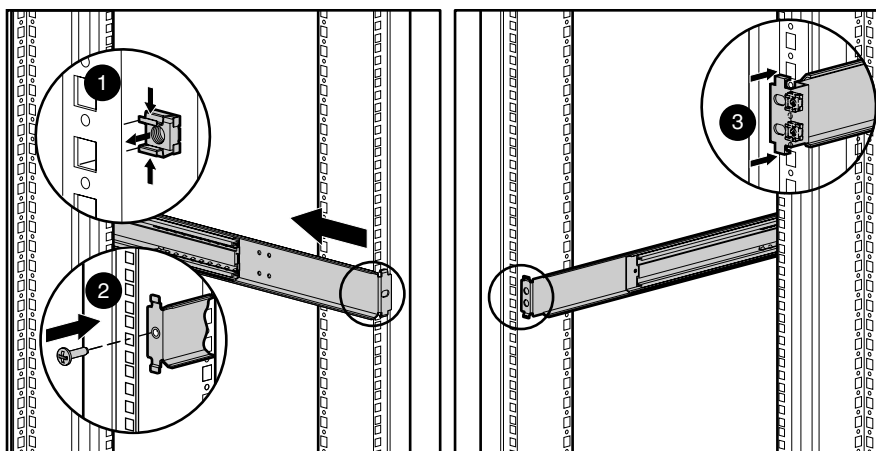


図2-2: マウンティング レールをラック前面および背面に取り付ける

3. ケーブル アクセス ホールがラックの右側を向くようにして、固定金具アセンブリを各マウンティング レールに合わせます。
 - a. 固定金具を挿入できるようにレールを少し外側に曲げます。固定金具のネジ穴とレールのネジ穴の位置を合わせます (1)。
 - b. 1本の6-32ネジを両側に挿入します (2)。
 - c. ネジを締めます (3)。

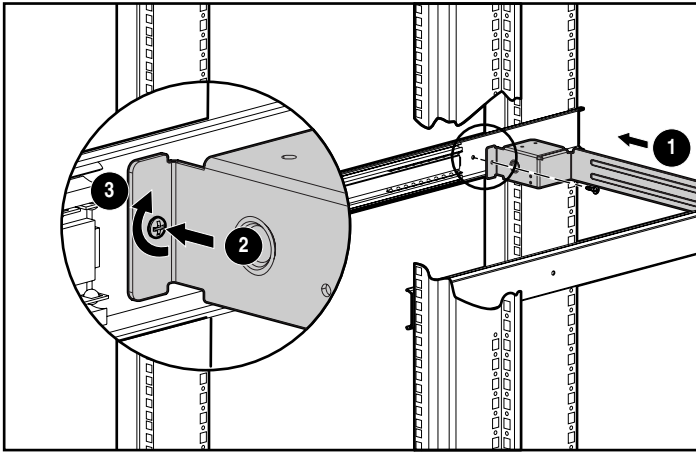


図2-3: マウンティング ブラケットに固定金具を取り付ける

注: ケーブルを正しく配線できるようにケーブル アクセス ホールが右側にあることを確認してください。

4. トレイ アセンブリを取り付けます。
 - a. スライディング レールを、ロックされるまで完全に引き出します (1)。
 - b. トレイ アセンブリをレールに置いて、トレイのネジ穴の位置をレールのタブに揃えます (2)。
 - c. 2本の6-32ネジで両側を固定します (3)。

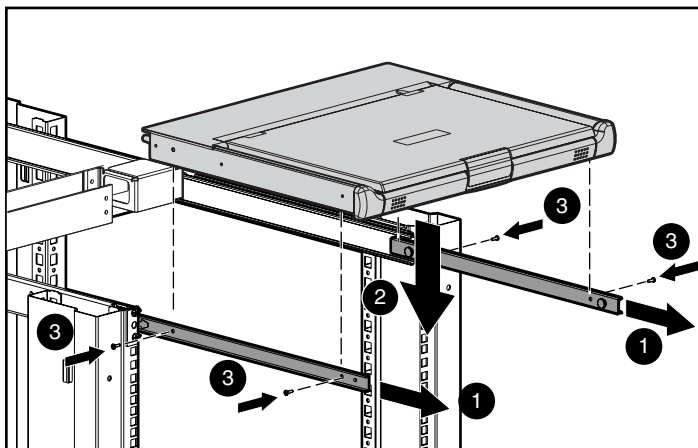


図2-4: トレイ アセンブリを取り付ける

5. 2本の6-32ネジを使用してケーブル マネジメント アームをトレイの背面に取り付けます。

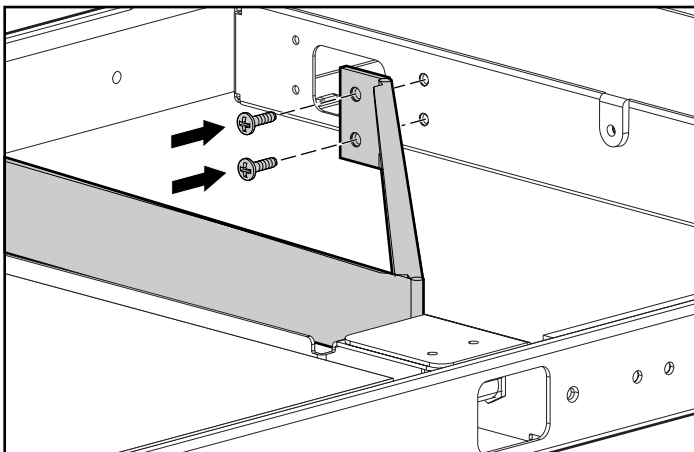


図2-5: ケーブル マネジメント アームを取り付ける

6. キーボード、電源、およびモニタの各ケーブルを慎重にケーブル マネジメント アームに延ばします。次に、マウンティング レールの開口部にケーブルを通します。

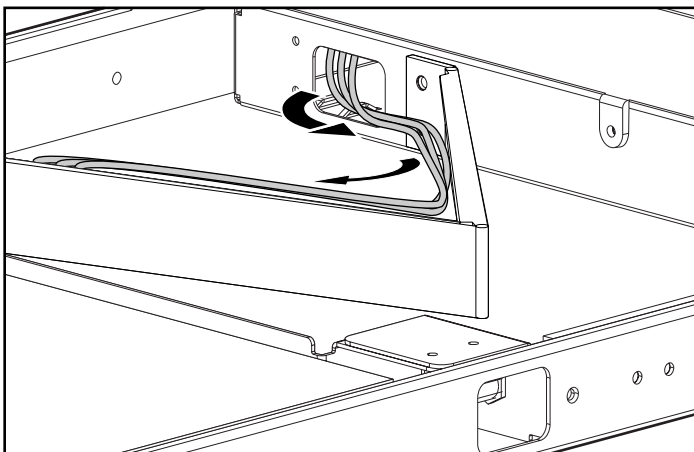


図2-6: ケーブルを配線する

7. トレイをラックに戻します。

- a. ロック パーをスライドさせてロックを外します (1)。

重要: TFT5600 RKMが取り付け時に他のラックマウント型デバイスと正しく揃わない場合、障害が発生するため、ユニットの上部にある化粧パネルが損傷する場合があります。調整の間、ユニットの保護シートは、そのままにしておいてください。

- b. トレイを慎重にラックに押し込みます (2)。

重要: TFT5600 RKMが他のラックマウント型デバイスの上側または下側で障害となる場合、マウンティング レールのM6ネジを緩め、適切な調整を行ってください (図2-2を参照)。

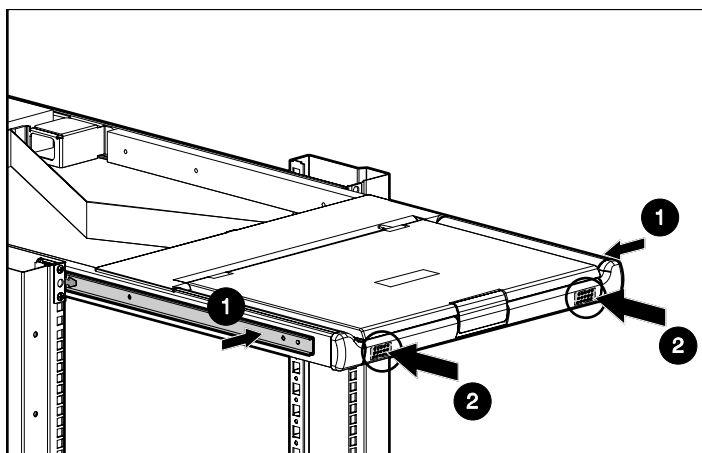


図2-7: トレイをラックに戻す

TFT5600 RKMのトレイにアクセスする

1. トレイを静かに押し込んでロックを解除し (1)、スライドがロックするまでユニットを完全に引き出します。
2. ディスプレイ リリース ラッチを持ち上げて (2)、ディスプレイを回転させます (3)。

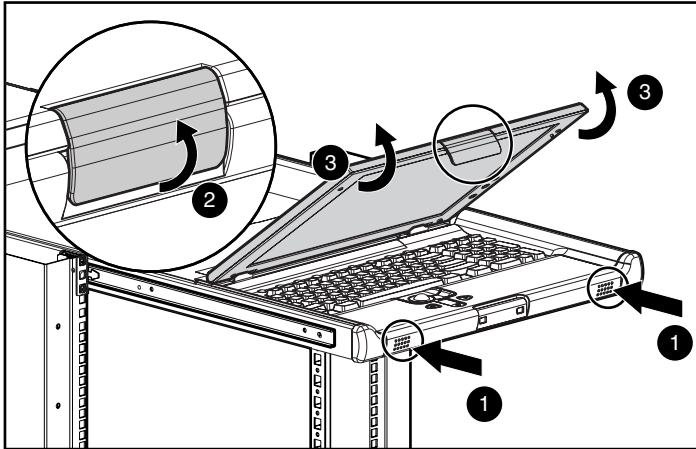


図2-8: TFT5600 RKMにアクセスする

TFT5600 RKMを取り外す

TFT5600 RKMを取り外すには、「取り付け手順」の項で説明した手順と逆の手順を行ってください。

ケーブル ロック メカニズム

TFT5600 RKMのケーブルには、ケーブル接続を確実にするためのケーブル ロック メカニズムが付いています。これらのケーブルを取り外す場合は、正しい手順を実行しなければなりません。



注意: 正しい手順に従って取り外さないと、ケーブルまたはユニットが損傷する場合があります。

キーボード ケーブルを正しく取り外すには、以下の手順に従ってください。

1. カバーを持ちます。
2. カバーを後ろにずらして、ケーブル ロック メカニズムを外します。
3. ケーブルを取り外します。

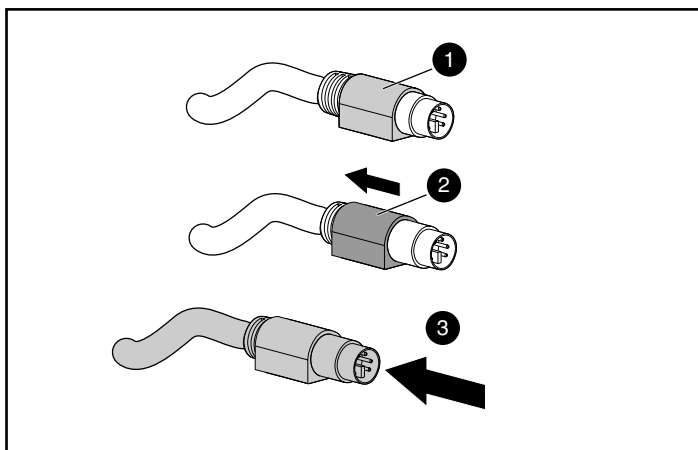


図2-9: キーボード ケーブルを取り外す

ケーブルは、適切なコネクタに差し込むだけで挿入できます。ケーブル ロック メカニズムは自動的にケーブルを所定の位置にロックします。

キーボードをスイッチ ボックスに接続する場合は、以下の順序でケーブルをスイッチ ボックスに接続してください。

1. マウス
2. モニタ
3. キーボード

重要: このケーブル接続の順序は、後でシステムに新しいデバイスを追加する場合に特に重要になります。マウスおよびキーボードは、システムの稼動中にスイッチ ボックスに接続できます。新しいデバイスを接続すると、スイッチ ボックスはデバイスを認識して、現在選択されているコンピュータ用に設定します。これにより、障害の発生したデバイスを、システムを再起動せずに交換することが可能になります。

TFT5600 RKMの使い方

オン スクリーン メニュー

オン スクリーン メニュー（OSD）のボタンを使用して、TFT5600 RKMのOSDメニューを操作します。

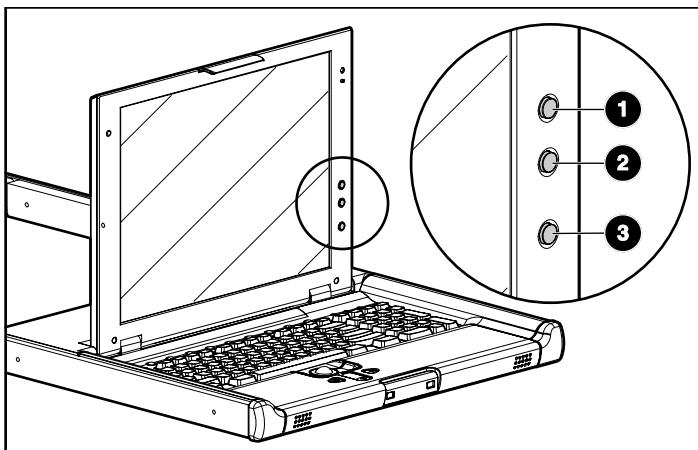


図3-1: OSDのボタン

表3-1: OSDのボタン

参照番号	コンポーネント	機能
1	OSDのスクロール アップ ボタン	OSDメニューで上にスクロール したり、機能を調整したりする 場合に使用します
2	OSDのスクロール ダウン ボタン	OSDメニューで下にスクロール したり、機能を調整したりする 場合に使用します
3	OSDの起動ボタン	<ul style="list-style-type: none">• OSDメニューを起動します• 選択します• OSDメニューを終了します

OSDのメインメニュー

OSDのメインメニューを起動するには、以下の手順に従ってください。

1. フロントパネルのOSDの起動ボタン（3）を押します。画面にメインメニューが表示されます。
2. モニタのフロントパネルのダウン（-）ボタン（2）およびアップ（+）ボタン（1）を使用し、設定したい項目を選択します。下の項目を選択する場合はマイナスボタンを、上の項目を選択する場合はプラスボタンを押してください。
3. OSDの起動ボタン（3）をもう一度押し、設定したい項目を選択します。詳細を設定するためのサブメニューが表示されます。

モード設定 - この設定が、モード単位であることを示します。この呼び出しによって得られる設定値は、EEPROM（Electrical Erasable Programmable Read Only Memory）に格納され、モードの設定時に復元されます。この設定値は、この機能をもう一度実行するか、工場出荷時の設定値を再設定することにより変更できます（復元したいモードである場合のみ）。

グローバル設定 - この設定が、すべてのモードに適用されるグローバル設定であることを示します。この呼び出しによって得られる設定値は、EEPROMに格納され、電源投入時に復元されます。この設定値は、この機能をもう一度実行するか、工場出荷時の設定値を再設定することにより変更できます。

注: モード設定とグローバル設定については、以下の項を参照してください。

OSDのデフォルトメニュー

OSDのデフォルトメニューを使用すると、以下の機能にアクセスできます。

- Auto Setup（自動設定）
- Brightness（明るさ）
- Contrast（コントラスト）
- Image Adjust（画像調整）
- Language
- OSD Settings（OSD設定）
- Restore Factory Presets（設定初期化）
- Information（情報）
- Exit（戻る）

Auto Setup（自動設定）

このオプションでは、以下の4つの機能を自動的に実行します。

Auto Level

自動的に画面の黒色と白色のレベルを調整します。Auto Levelは、グローバル設定です。

Auto Position

自動的に画面の位置を調整します。Auto Positionは、モード設定です。

Auto Phase

自動的にフェーズを調整します。Auto Phaseは、グローバル設定です。

Auto Clock

自動的に入力クロックに合わせて、1ラインごとに出力クロックを調整します。Auto Clockは、グローバル設定です。

Brightness（明るさ）

このオプションにより、ステータス バー内にスライダ バーが表示され、バックライトの輝度を調整できるようになります。

- **[Up(+)]**は、現在の値を増加します。
- **[Down(-)]**は、現在の値を減少します。
- **[Select]**は、現在の値を受け入れてスライダ バーを終了します。

Brightnessは、モード設定です。

Contrast（コントラスト）

このオプションにより、ステータス バー内にスライダ バーが表示され、画面のコントラストを調整できるようになります。コントラストを調整する場合、背景が白色であると、画面は識別しやすくなります。色の値が範囲を越えると、**[Auto Level]**機能が実行されます。

- **[Up(+)]**は、現在の値を増加します。
- **[Down(-)]**は、現在の値を減少します。
- **[Select]**は、現在の値を受け入れてスライダ バーを終了します。

Contrastは、モード設定です。

Image Adjust（画像調整）

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

- Horizontal Position（水平位置）
 - Vertical Position（垂直位置）
 - Image Enhancement（画質設定）
 - Color（色設定）
 - Exit（戻る）
- [Up(+)]は、Image Adjustメニュー リストで選択する項目を上に移動します。
 - [Down(-)]は、Image Adjustメニュー リストで選択する項目を下に移動します。
 - [Select]は、Image Adjustメニューの処理を実行します。

Horizontal Position（水平位置）

このオプションにより、ステータス バー内にスライダ バーが表示され、画面の水平位置を調整できるようになります。

バーの中央の値は、水平位置の工場出荷時の設定値から求められます。値=MINのとき、+の位置の選択範囲は、XGAとSXGAパネルで異なる場合があります。これは、MIN OSDの配置の物理的限界によるものです。このバーの範囲は、 ≥ 8 および $\leq (H_{total}-HPixel-9)$ になります。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダ バーを終了します。

Horizontal Positionは、モード設定です。

Vertical Position（垂直位置）

このオプションにより、ステータス バー内にスライダ バーが表示され、画面の垂直位置を調整できるようになります。

バーの中央の値は、垂直位置の工場出荷時の設定値から求められます。バーの範囲は、 ≥ 1 および $\leq (V_{total}-V_{pixel}-2)$ になります。

- **[Up(+)]**は、現在の値を増加します。
- **[Down(-)]**は、現在の値を減少します。
- **[Select]**は、現在の値を受け入れてスライダ バーを終了します。

Vertical Positionは、モード設定です。

Image Enhancement（画質設定）

このオプションには、以下の3つの選択肢があります。

- Context Sensitive（コンテキスト）
- Text（テキスト（シャープ））
- Video（ビデオ（スムーズ））
 - **[Up(+)]**は、Image Enhancementメニュー リストの選択する項目を上に移動し、その選択肢を有効にします。
 - **[Down(-)]**は、Image Enhancementメニュー リストの選択する項目を下に移動し、その選択肢を有効にします。
 - **[Select]**は、Image Enhancementメニュー リストを終了し、最後に選択した項目を新しいデフォルトに設定します。

Context Sensitive（コンテキスト）

これを選択すると、IQスケーリング エンジンが自動的にピクセル単位で調整され、テキストは鮮明になり、グラフィックス画像は滑らかになります。

Text（テキスト（シャープ））

これを選択すると、鮮明度の高いフィルタを使用するようにIQスケーリング エンジンが設定されるので、テキストがより鮮明になります。

Video（ビデオ（スムーズ））

これを選択すると、鮮明度の低いフィルタを使用するようにIQスケーリング エンジンが設定されるので、画像がより滑らかに表示されます。

Color（色設定）

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

- Color Temp（色合い）
- RGB Adjust（RGB調整）
- Black Level Adjust（黒レベル調整）
- Advanced（アドバンスト）
- Exit（戻る）
 - [Up(+)]は、Colorメニュー リストで選択する項目を上に移動します。
 - [Down(-)]は、Colorメニュー リストで選択する項目を下に移動します。
 - [Select]は、Colorメニューの処理を実行します。

Color Temp（色合い）

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

注: Color TempのCool、Neutral、およびWarmは、モード設定です。

- Cool（寒色）
これを選択すると、3つのカラーチャンネルのすべてについて、寒温色のガンマテーブルがロードされます。
- Neutral（中間色）
これを選択すると、3つのカラーチャンネルのすべてについて、中間色温度のガンマテーブルがロードされます。
- Warm（暖色）
これを選択すると、3つのカラーチャンネルのすべてについて、暖温色のガンマテーブルがロードされます。
- [Exit（戻る）]
 - **[Up(+)]**は、Color Tempメニュー リストの選択する項目を上に移動し、その選択肢を有効にします。
 - **[Down(-)]**は、Color Tempメニュー リストの選択する項目を下に移動し、その選択肢を有効にします。
 - **[Select]**オプションは、Color Tempメニュー リストを終了し、最後に選択した項目を新しいデフォルトに設定します。

RGB Adjust (RGB調整)

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

注: RGB AdjustのRed、Green、およびBlueは、モード設定です。

- Red (赤)

このオプションにより、ステータス バー内にスライダ バーが表示され、画面の赤色を調整できるようになります。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダ バーを終了します。

- Green (緑)

このオプションにより、ステータス バー内にスライダ バーが表示され、画面の緑色を調整できるようになります。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダ バーを終了します。

- Blue (青)

このオプションにより、ステータス バー内にスライダ バーが表示され、画面の青色を調整できるようになります。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダ バーを終了します。

- Exit (戻る)

- [Up(+)]は、RGB Adjustメニュー リストで選択する項目を上に移動します。
- [Down(-)]は、RGB Adjustメニュー リストで選択する項目を下に移動します。
- [Select]は、RGB Adjustメニューの処理を実行します。

Black Level Adjust（黒レベル設定）

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

注: Black Level AdjustのRed、Green、およびBlueは、モード設定です。

- Red（赤）

このオプションにより、ステータスバー内にスライダバーが表示され、画面の赤色に対する黒色のレベルを調整できるようになります。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダバーを終了します。

- Green（緑）

このオプションにより、ステータスバー内にスライダバーが表示され、画面の緑色に対する黒色のレベルを調整できるようになります。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダバーを終了します。

- Blue（青）

このオプションにより、ステータスバー内にスライダバーが表示され、画面の青色に対する黒色のレベルを調整できるようになります。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダバーを終了します。

- Exit（戻る）

- [Up(+)]は、Black Level Adjustメニューリストで選択する項目を上に移動します。
- [Down(-)]は、Black Level Adjustメニューリストで選択する項目を下に移動します。
- [Select]は、Black Level Adjustメニューの処理を実行します。

Advanced（アドバンスト）

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

- Phase Adjust（フェーズ調整）

このオプションにより、ステータスバー内にスライダバーが表示され、アナログ信号のフェーズを調整できるようになります。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダバーを終了します。

Advanced-Phaseは、モード設定です。

- Clock Adjust（クロック調整）

このオプションにより、ステータスバー内にスライダバーが表示され、水平クロックを調整できるようになります。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダバーを終了します。

Advanced-Clockは、モード設定です。

- Exit（戻る）

- [Up(+)]は、Advancedメニューリストで選択する項目を上に移動します。
- [Down(-)]は、Advancedメニューリストで選択する項目を下に移動します。
- [Select]は、Advancedメニューの処理を実行します。

Languages

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

- English
- Dutch
- French
- German
- Italian
- Japanese
- Portuguese
- Simple Chinese
- Spanish
- Swedish

- **[Up(+)]**は、Languageメニュー リストで選択する項目を上に移動します。
- **[Down(-)]**は、Languageメニュー リストで選択する項目を下に移動します。
- **[Select]**は、Languageメニュー リストを終了し、選択された言語を有効にします。

OSD Settings（OSD設定）

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

- OSD Position（OSD位置）
- OSD Size（OSDサイズ）
- OSD Timeout（OSD表示時間）
- Exit（戻る）

- **[Up(+)]**は、OSD Settingsメニュー リストで選択する項目を上に移動します。
- **[Down(-)]**は、OSD Settingsメニュー リストで選択する項目を下に移動します。
- **[Select]**は、OSD Settingsメニューの処理を実行します。

OSD Position（OSD位置）

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

- Horizontal Position（水平位置）
- Vertical Position（垂直位置）
- Exit（戻る）
 - [Up(+)]は、OSD Positionメニュー リストで選択する項目を上に移動します。
 - [Down(-)]は、OSD Positionメニュー リストで選択する項目を下に移動します。
 - [Select]は、OSD Positionメニューの処理を実行します。

Horizontal Position（水平位置）

このオプションにより、OSDウィンドウの位置を画面上で水平に移動できます。

- [Up(+)]は、ウィンドウを右に移動します。
- [Down(-)]は、ウィンドウを左に移動します。
- [Select]は、この位置を受け入れて、調整を終了してサブメニューに戻ります。

OSDのHorizontal Positionは、モード設定です。

Vertical Position（垂直位置）

このオプションにより、OSDウィンドウの位置を画面上で上下に移動できます。

- [Up(+)]は、現在の値を増加します。
- [Down(-)]は、現在の値を減少します。
- [Select]は、この位置を受け入れて、調整を終了してサブメニューに戻ります。

OSDのVertical Positionは、モード設定です。

OSD Size (OSDサイズ)

このオプションには、以下のサブメニューがあります。

- Normal (標準)
- Double (2倍)
 - [Up(+)]は、OSD Sizeメニュー リストで選択する項目を上に移動します。
 - [Down(-)]は、OSD Sizeメニュー リストで選択する項目を下に移動します。
 - [Select]は、OSD Sizeメニュー リストを終了し、最後に選択した項目を新しいデフォルトに設定します。

OSD Sizeは、グローバル設定です。

Normal (標準)

OSDのサイズは、通常の文字の大きさに設定されます。

Double (2倍)

OSDのサイズは、2倍の文字の大きさに設定されます。OSDの位置は、画面上に見えるように必要に応じて調整できます。

OSD Timeout (OSD表示時間)

このオプションにより、OSDディスプレイの右側にスライダ バーが表示され、OSDのタイムアウトを調整できるようになります。タイムアウトの範囲は、5秒間隔で5～55秒です。デフォルト設定は、10秒です。

- [Up(+)]は、OSDが表示される時間を増加します。
- [Down(-)]は、OSDが表示される時間を減少します。
- [Select]は、現在の値を受け入れてスライダ バーを終了します。

OSD Timeoutは、モード設定です。

Information（情報）

OSDは、以下のユニットの情報を表示します。

- Model Number
- Micro Code Version
- EXIT

ステータス バー

ステータス バーは、レート（1024×768 60Hz）を表示します。

キーボードの使用方法

TFT5600 RKMには、頻繁に使用する9台のラックマウント型デバイスに迅速にアクセスする9つのホット キーと1つのプログラム可能なキーを使用します。

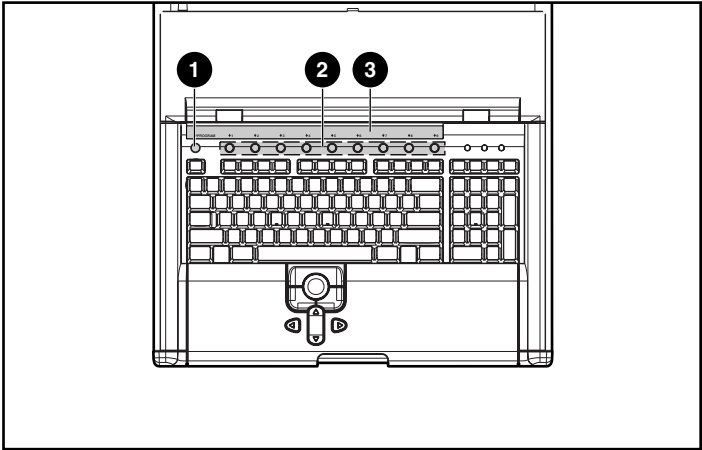


図3-2: キーボードのホット キー

表3-2: キーボードのホット キー

番号	説明
1	プログラム可能なウィザード キー
2	9つのホット キー
3	キーボード ホット キー ラベル

プログラム可能なウィザード キー (1) を使用して、他の9つのホット キー (2) をプログラミングできます。ウィザード キーを使用して、プログラミング操作モードを開始できます。

注: 重ねてある2枚のキーボード ホット キー ラベル (3) (鉛筆で書き換え可能) は、キットに同梱され、ユーザが取り付けます。

キーボードのプログラミング

TFT5600 RKMは、最大9台のデバイスをホット キーに割り当てることができます。また、1つのホット キーに対して最大7ストローク分のキー入力をプログラミングすることができます。

ホット キーをプログラムするには、以下の手順に従ってください。

1. プログラミング ウィザード キーを押します。
2. **Print Scrn**キーを押します。
3. デバイスを識別します（表3-2の例を参照）。

表3-3: ホット キーのプログラミングの例

例	
1	スレーブ スイッチ1の最初のサーバを選択するには、 1-1 をタイプします
2	スレーブ スイッチ1の8番目のサーバを選択するには、 1-8 をタイプします
3	スレーブ スイッチ2での4番目のサーバを選択するには、 2-4 をタイプします
4	マスタ スイッチのポート8に接続されたスタンドアロン サーバを選択するには、 8 をタイプします

4. **Enter**キーを押します。
5. 割り当てたいホット キーを選択して、設定を終了します。

注: 表3-3で示した4つの例すべてをプログラミングするには、各例を別々にプログラミングしなければなりません。デバイスの割り当ては、固定的なものではありません。デバイスを割り当てなおすには、上記の手順を繰り返してください。

キーボード ホット キー ラベル

TFT5600 RKMには、9つのホット キーの上に重ね、鉛筆で書き換え可能なラベルを、ユーザーが取り付けすることができる機能があります。

キーボード ホット キー ラベルを取り付けるには、以下の手順に従ってください。

1. ラベル上のリリース ライナーを取り外します。
2. ホット キー上のくぼみのある部分にラベルを取り付けます。

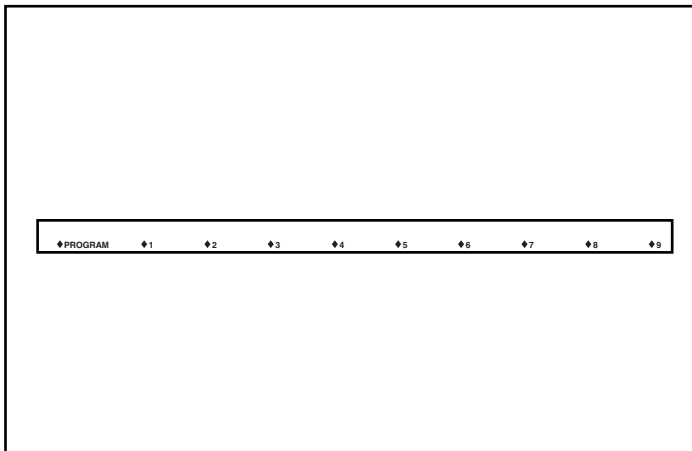


図3-3: キーボード ホット キー ラベル

保守と運搬のガイドライン

この項では、TFT5600 RKMの保守と運搬のガイドラインについて説明します。

ユニットを過熱や損傷から守るために、以下の注意事項に従ってください。

- AC電源は、ユニット背面のラベルに記載された条件に適合するものを選んでください。
- 延長コードやマルチソケットに接続する場合には、コードに接続する機器の定格電流の合計が、延長コードやマルチソケットの許容電流の80%を超えないようにしてください。
- 電源コンセント、マルチソケット、または電源ソケットに負荷をかけ過ぎないようにしてください。システム全体の負荷が回路の定格電流の80%を超えないようにしてください。マルチソケットを使うときは、負荷がマルチソケットの入力定格の80%を超えてはなりません。
- ユニットを、ACコンセントの近くに設置します。電源コードをACコンセントから外すときは、必ずプラグをしっかりと持って抜きます。コードを引っ張って抜かないでください。
- ユニットを掃除するときには、必ず電源コードをACコンセントから外します。液体クリーナやスプレー式クリーナは使わないでください。
- モニタのスロットと開口部は通気のために必要です。スロットと開口部を異物でふさがないでください。

- ユニットを落としたり、不安定な台の上に置いたりしないでください。
- 電源コードの上に物を置いたり足で踏んだりしないでください。
- ユニットは通気のよい場所に設置し、過度の光熱や湿気にさらさないようにします。また、大容量のトランスやモータなど、強い磁気を発生する機器の近くに置かないでください。
- ユニットを自分で修理しないでください。ユニットの調整は、このマニュアルに記載の方法で行ってください。ユニットが正常に動作しない場合、あるいは落としたり破損した場合には、HPのサービス窓口にお問い合わせください。

ディスプレイの清掃

以下の手順でディスプレイを清掃してください。

1. ユニットの電源コードを外して電源を切ります。
2. 画面については、清潔な柔らかい布で拭いてパネルのほこりを取り除きます。

布で拭いただけでは画面の汚れがとれない場合には、静電気防止用のCRTクリーナを使います。



注意: ベンジン、シンナー、アンモニアなどの揮発性の溶剤を使ってモニタを拭かないでください。このような化学薬品を使うと、キャビネット表面が損傷します。また、LCD画面の清掃には水を使用しないでください。

TFT5600 RKMの運搬

梱包箱は保管してください。モニタおよびユニットの組み合わせの移動または搬送を行うときにこの梱包箱が必要になることがあります。

ラックに設置されているTFT5600 RKMの移動

ラックに設置されているTFT5600 RKMを移動するには、ご使用のキットに同梱されているロック プレート（226969-001）を、ユニットおよびラックの両側に取り付けることをおすすめします。

ロック プレートを取り付けるには、以下の手順に従ってください。

1. スライド レールがロックされるまで、完全に引きのばします。
2. 前面側にあるプラスチック製ベゼルの端の裏側にロック プレートを合わせ、上下の穴がピンと揃っているかどうかを確認します。
3. 1本の6-32ネジをロック プレートの中央の穴に挿入し（1）、ユニットに固定します。
4. 1本のM6ネジをロック プレートの突起部分の穴に挿入し（2）、ユニットをラックに固定します。
5. 手順2～4を繰り返して、他のロック プレートを取り付けます。

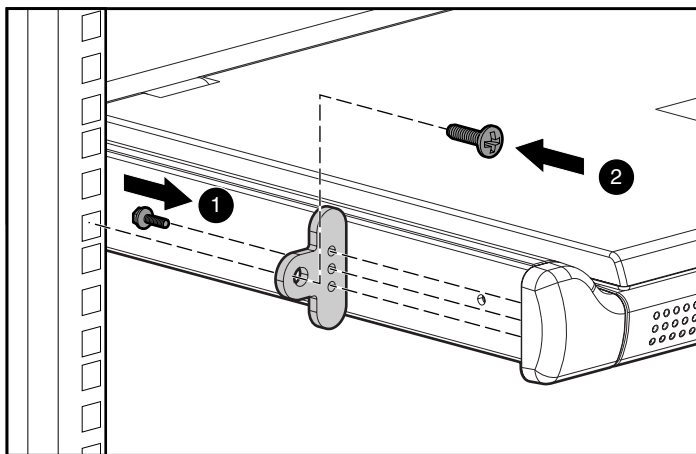


図4-1: ロック プレートを取り付ける

規定に関するご注意

ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読みください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

規定準拠識別番号

規定準拠認定と識別用に、TFT5600 RKMには、HPシリーズ番号が割り当てられています。この製品のHPシリーズ番号は、EO1007です。TFT5600 RKMシリーズ番号は、必要な承認マークと情報とともに、製品ラベルに記載されています。この製品の認定情報を要求される場合は、必ずこのシリーズ番号をお知らせください。このシリーズ番号は、TFT5600 RKMの市販名やモデル番号とは別のものです。

各国別勧告

以下に日本以外の国や地域での規定を掲載します。

Federal Communications Commission Notice

Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) Rules and Regulations has established Radio Frequency (RF) emission limits to provide an interference-free radio frequency spectrum. Many electronic devices, including computers, generate RF energy incidental to their intended function and are, therefore, covered by these rules. These rules place computers and related peripheral devices into two classes, A and B, depending upon their intended installation. Class A devices are those that may reasonably be expected to be installed in a business or commercial environment. Class B devices are those that may reasonably be expected to be installed in a residential environment (personal computers). The FCC requires devices in both classes to bear a label indicating the interference potential of the device as well as additional operating instructions for the user.

The rating label on the device shows which class (A or B) the equipment falls into. Class B devices have an FCC logo or FCC ID on the label. Class A devices do not have an FCC ID on the label. Once the class of the device is determined, refer to the following corresponding statement.

Class A Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at personal expense.

Class B Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio or television technician for help.

Declaration of Conformity for Products Marked with the FCC logo – United States Only

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For questions regarding your product, contact:

Hewlett-Packard Company
P. O. Box 692000, Mail Stop 530113
Houston, Texas 77269-2000

or call 1-800- 652-6672. For continuous quality improvement, calls may be recorded or monitored.

For questions regarding this FCC declaration, contact:

Hewlett-Packard Company
P. O. Box 692000, Mail Stop 510101
Houston, Texas 77269-2000

or call 281-514-3333.

To identify this product, refer to the Part, Series, or Model number found on the product.

Modifications

The FCC requires the user to be notified that any changes or modifications made to this device that are not expressly approved by the Hewlett-Packard Company may void the user's authority to operate the equipment.

Cables

Connections to this device must be made with shielded cables with metallic RFI/EMI connector hoods in order to maintain compliance with FCC Rules and Regulations.

Canadian Notice (Avis Canadien)

Class A Equipment

This Class A digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe A respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

Class B Equipment

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

European Union Notice

Products with the CE Marking comply with both the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community.

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms (in brackets are the equivalent international standards):

- EN55022 (CISPR 22) - Electromagnetic Interference
- EN50082-1 (IEC801-2, IEC801-3, IEC801-4) - Electromagnetic Immunity
- EN60950 (IEC950) - Product Safety

Taiwanese Notice

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

German Ergonomics Notice

HP Computers, when tested with the HP PE1200 Series monitors, were evaluated and found compliant to the requirements of ZH 1/618 (German Safety Regulations for Display Work Places in the Office Sector) in the Text Mode (720 x 400) using MS-DOS version 3.31 (or higher) and BASICA as published by the Hewlett-Packard Company.

静電気対策

注意事項

ユニットをセットアップしたり、部品を取り扱う場合には、システムの損傷を防止するために守らなければならないことがあるので注意してください。人間の指など、導電体からの静電気放電によって、システム ボードなどの静電気に弱いデバイスが損傷して、耐用年数が短くなる場合があります。

静電気による損傷を防止するには、以下のことを守ってください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースに入れたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずケースごとアースされている面に置きます。
- ピン、リード線、回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品に触れなければならないときには、つねに自分の身体に対して適切なアースを行います。

アースの方法

アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうち1つ以上の方法でアースを行ってください。

- すでにアースされているコンピュータ本体にアースバンドをつなぎます。アースバンドは柔軟な带状のもので、アースコード内の抵抗は、 $1\text{M}\Omega \pm 10\%$ です。アースを正しく行うために、アースバンドを肌に密着させてください。
- 立って作業する場合、かかとやつま先にアースバンドをつけます。導電性または静電気拡散性の床の場合、両足にアースバンドをつけます。
- 作業用具は導電性のものを使用します。
- 折りたたみ式の静電気防止マットがついた、携帯式の作業用具もあります。

上記のような、適切にアースを行うための器具がないときは、HPのサービス会社にお問い合わせください。

注: 静電気について詳しくは、HPのサービス窓口にお問い合わせください。

電源コードについて

電源コードは、ユーザが装置を購入した国内で使用するために必要な仕様を満たしています。電源選択スイッチにより、ご使用のサーバに適切な電圧を選択できます。

サーバを他の国で使用する場合は、電源コードはサーバを使用する国の仕様を満たしていなければなりません。電源コードの仕様については、HP製品販売店にお問い合わせください。

一般的な仕様

以下の仕様は、すべての国で適用されます。

- 電源コードの長さは、1.8～3.7メートルでなければなりません。
- 電源コードは、使用する国の承認機関で認可されたものでなければなりません。
- 電源コードの最小許容電流および公称定格電圧は、各国の電源システムの要求仕様によって異なりますが、10A、125VACまたは10A、250VACでなければなりません。
- カプラは、コンピュータのアウトレットに結合できるように、EN60 320/IEC320標準シートC5コネクタの機械的形状を満たすものでなければなりません。

各国の条件

表C-1を使用して、ユーザの国の承認機関を識別してください。

表C-1: 国別の電源コードの仕様

国名	承認機関	注
オーストラリア	EANSW	1
オーストリア	OVE	1
ベルギー	CEBC	1
カナダ	CSA	2
デンマーク	DEMKO	1
フィンランド	SETI	1
フランス	UTE	1
ドイツ	VDE	1
イタリア	IMQ	1
日本	経済産業省（METI）	3
ノルウェー	NEMKO	1
スウェーデン	SEMKO	1
スイス	SEV	1

続く

表C-1: 国別の電源コードの仕様（続き）

国名	承認機関	注
英国	BSI	1
米国	UL	2

注:

- コード部分は、導線サイズが 0.75mm^2 のHAR（ハーモナイズド）タイプH05W-F、3線のものでなければなりません。電源コードの取付部分（カブラおよびプラグ部分）は、必ずご使用になる国での承認機関の承認マークが付いていなければなりません。
- コード部分は、導線がSVTタイプまたは同等の、3線でなければなりません。プラグ部分は、NEMA 5-15P（15A、125V）準拠の2極、アース端子付きタイプである必要があります。
- カブラ、コード部分およびプラグ部分には、日本の電気用品取締法に基づく"T"マークと登録番号または電気用品安全法に基づく"PSE"マークと検査機関名が付いていることをお確かめください。コード部分は、導線サイズが 0.75mm^2 の、VCTまたはVCTF、3線コードでなければなりません。プラグ部分は、JIS規格C8303（7A、125V）準拠の2極、アース付きの形状でなければなりません。

D

仕様

表D-1: HP TFT5600 RKM

ディスプレイ タイプ	15インチ (36.83cm) フラット パネル、アクティ ブ マトリクス方式TFT LCD	38.1cm
表示可能画像サイズ	15インチ (36.83cm) (対角線)	38.1cm
画面処理	グレア防止コーティング 処理透明プロテクタ	
最大重量		6.25kg
最大寸法		
高さ		4.32cm
奥行		39.6cm
幅		43.2cm
解像度	1024×768 (最大パフォーマンスに おける推奨値)	
最大出力グラフィックス 解像度	1024×768	

続く

表D-1: HP TFT5600 RKM (続き)

ドットピッチ	0.29mm
水平周波数	48.2kHz
垂直周波数	60Hz
環境条件動作保証温度 (動作保証高度に依存しない)	
動作時	10～50℃
保管時	0～60℃
相対湿度	
動作時	20～90% (結露しないこと)
非動作時	0～90% (結露しないこと)
電源	90～264VAC、47～63Hz
消費電力	50W

索引

A

Advanced 3-12
 Phase Adjust 3-12
Auto Clock
 OSD 3-5
Auto Level
 OSD 3-4
Auto Phase
 OSD 3-4
Auto Position
 OSD 3-4
Auto Setup
 OSD 3-4

B

Black Level Adjust 3-11
Brightness 3-5
 OSD 3-5

C

Cables A-3
Canadian Notice (Avis Canadien)
 A-4
CE Marking A-4
Class A Equipment A-2、A-4
Class B Equipment A-3、A-4
Color 3-8
Color Temp
 OSD 3-9
Context Sensitive 3-7
Contrast
 OSD 3-5

D

Declaration of Conformity A-3

E

European Union Notice A-4

F

Federal Communications
 Commission Notice A-2

G

German Ergonomics Notice
 A-5

H

Horizontal Position
 OSD 3-6
HPシリーズ番号 A-1
HPのWebサイト ix

I

Image Adjust
 OSD 3-6
Image Enhancement 3-7

L

LED

- Cap lock 1-5
- Number Lock 1-5
- Scroll lock 1-5

M

- Modifications A-4

O

OSD

- Auto Clock 3-5
- Auto Level 3-4
- Auto Phase 3-4
- Auto Position 3-4
- Auto Setup 3-4
- Brightness 3-5
- Contrast 3-5
- Horizontal Position 3-6
- Image Adjust 3-6
- Information (情報) 3-16
- Vertical Position 3-7
- 位置 3-14
- 起動 3-3
- 起動ボタン 1-4、3-2
- グローバル設定 3-3
- サイズ 3-15
- スクロール アップ ボタン 3-2
- スクロール ダウン ボタン 1-4、3-2
- ステータス バー 3-16
- 設定 3-13
- デフォルト メニュー 3-4
- 表示時間 3-15
- メイン メニュー 3-3
- モード設定 3-3
- OSDのスクロールダウンボタン 1-4
- OSDのボタン 3-2
- 表 3-2

P

- Phase Adjust 3-12

R

- RGB Adjust 3-10

T

- Taiwanese Notice A-5
- Text 3-8
- TFT5600 RKM 1-1
 - 移動 4-3
 - 運搬 4-2
 - 温度
 - 動作時 D-2
 - 保管時 D-2
 - 解像度 D-1
 - 画像サイズ D-1
 - キットの内容 2-1
 - コンポーネント 1-4
 - 重量 D-1
 - 垂直周波数 D-2
 - 水平周波数 D-2
 - 寸法 D-1
 - 相対湿度 D-2
 - 使い方 3-1
 - 手入れと保守 4-1
 - ドット ピッチ D-2
 - 取り外す 2-8
 - トレイにアクセスする 2-8

V

- Vertical Position
 - OSD 3-7
- VGAコネクタ 1-3

W

- Webサイト、HP ix

あ

アースの方法 B-2

お

オン スクリーン メニュー

操作 3-1

オン スクリーン メニュー

(OSD)

スクロール アップ ボタン

1-4

か

解像度 1-2

ガイドライン、保守と運搬 4-1

き

キーボード

9つのホット キー 1-5

Cap lock LED 1-5

Number Lock LED 1-5

Scroll lock LED 1-5

左右のスクロール ボタ

ン 1-5

上下のスクロール ボタ

ン 1-5

トラック ボール 1-5

左選択ボタン 1-5

プログラミング 3-18

プログラム可能なウィザー

ド キー 1-5

右選択ボタン 1-5

キットの内容、TFT5600

RKM 2-1

規定準拠、識別番号 A-1

く

グローバル設定

OSD 3-3

け

ケーブル マネジメント アーム

ケーブルを通す 2-6

取り付け 2-6

ケーブル ロック メカニズム 2-9

取り外し 2-9

言語 1-3

こ

項目、選択 3-3

コンポーネント

9つのホット キー 1-5

Cap lock LED 1-5

Number Lock LED 1-5

OSDの起動ボタン 1-4

Scroll lock LED 1-5

TFT5600 RKM 1-4

オン スクリーン メニュー

(OSD) のスクロール

アップ ボタン 1-4

左右のスクロール ボタン 1-5

上下のスクロール ボタン 1-5

ディスプレイ スイッチ 1-4

ディスプレイ リリース ラッチ 1-4

トラック ボール 1-5

左選択ボタン 1-5

プログラム可能なウィザー

ド キー 1-5

右選択ボタン 1-5

し

重要 viii

化粧パネルが損傷する 2-7

シリーズ番号 A-1

す

図

1Uテンプレートで測定する 2-2

OSDのボタン 3-2

ケーブルを配線する 2-6

トレイをラックに戻す 2-7
スイッチ ボックス製品
 ホット キー 1-2
スクロール キー 1-3

せ

静電気対策 B-1
セットアップ
 TFT5600 RKM 2-1

て

ディスプレイ
 スイッチ 1-4
 清掃 4-2
 リリース ラッチ 1-4
手入れと保守 4-1
デフォルト メニュー
 OSD 3-4
電源 1-3
電源コード
 仕様 C-1
テンプレート
 測定 2-2

と

トラック ボール 1-5
取り付け
 TFT5600 RKM 2-1
 ケージ ナット 2-3
 トレイ アセンブリ 2-5
マウンティング レール 2-3
ロック プレート 4-3

は

薄膜トランジスタ (TFT) 液晶
 ディスプレイ (LCD) 1-2

ひ

表

OSDのボタン 3-2
TFT5600 RKMのコンポーネ
 ント 1-4
ホット キーのプログラミ
 ングの例 3-18

ふ

プラグ アンド プレイ 1-3
プログラム可能なウィザード
 キー 1-5

ほ

保守
 運搬のガイドライン 4-1
 ディスプレイの清掃 4-2
ボタン
 左右のスクロール 1-5
 上下のスクロール 1-5
 左選択 1-5
 右選択 1-5
ホット キー
 機能 1-5
 スイッチ ボックス製品 1-2
 ホット キーおよびトラック
 ボール内蔵キーボード 1-3
本文中の記号 ix

ま

マウス、スイッチ ボックスに
 接続する 2-10
マウンティング レール、
 取り付け 2-3

め

メイン メニュー

Auto Phase 3-4

Auto Position 3-4

Brightness 3-5

Contrast 3-5

Horizontal Position 3-6

OSD 3-3

Vertical Position 3-7

も

モード設定

OSD 3-3

モード設定とグローバル設定 3-3

モニタ、スイッチ ボックスに

接続する 2-10

ろ

ロック バー、スライド 2-7